

第3章 県内の取組（学校等の取組事例）

川越町立川越南小学校

学習内容の理解と定着に向けた取組

川越南小学校では、学習内容の理解と定着に向けて、教職員全体で取組を行っています。「やりっぱなし」ではなく、定着状況を把握して「できなかったことをできる」ようにするため、様々な場面できめ細かくフォローすることを大切にしています。

取組① 「やりっぱなし」にせず、フォローの時間を大切にする

（1）朝の学習や補充学習での取組

- 朝の学習では、学年で実施内容を統一して読書（月曜日）と漢字や計算のプリント（火～金曜日）に取り組んでいます。朝の学習プリントについては、その日のうちに採点をして子どもに返却し、できなかった問題ができるようになるよう指導しています。休み時間には、担任が個々に補充学習に取り組んだり、授業が終わってから分からない子どもへの支援をしたりしています。

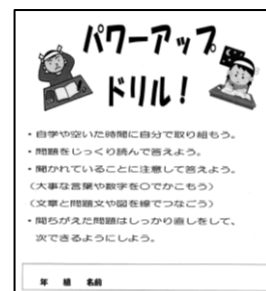
（2）年度末での定着状況の確認と理解の定着

- 1月の終わりに全学年で民間の学力検査を実施し、定着状況の確認をしています。できなかった問題ができるようになるよう、返却の際に解説の時間を設けたり、できなかった問題への再チャレンジを行ったりしています。年度内に子どもたちの学習内容の定着を図り、次の学年へ送るようにしています。

取組② 個人のペースに合わせて行うプリント学習の取組

（1）パワーアップドリル！の取組

- 学-Viva!!セットや「わかる・できる育成カリキュラム」から、記述問題や苦手な分野のプリントを集め1冊にした「パワーアップドリル！」を子どもたちに渡しています。一冊50枚ほどのプリントで構成されています。「パワーアップドリル！」はいつも机の引き出しの中に入れてあり、期限までに提出できるよう、テストや課題が早く終わったときなどに子どもたちが自分のペースで進めています。プリントの裏に解答や解説が書いてあるので、自分で取り組むことができます。



取組③ 全国学力・学習状況調査の結果を、学校／学級別解答状況整理表（S-P表）を用いて分析

（1）S-P表を用いた分析を実施し、個々の課題を把握する

- S-P表を見ながら実際の調査問題と照らし合わせ、誤答の状況から「Aさんは、ここまではできていたんや」「あと、この条件が書いたら正答やったんやな」など、具体的な子どもの姿を思い浮かべながら、教職員全体で子どものつまずきを把握するようにしています。数値だけでは分からない子どもの解答状況を見ながら、分析したことを組織的な取組につなげています。



S-P表の見方はこちら！

（2）子どものつまずきから、組織的な取組へ

- 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果から、国語の力、特に「主語と述語の関係をとらえること」に課題が見られることが分かってきました。そこで、2学期から、「主語と述語の関係をとらえること」など、基礎基本の内容について低学年の段階から系統立てて朝の学習や家庭学習に取り入れています。

成果 子どもたちは、「先生は、分かるまで教えてくれる」と感じています！

平成30年度第1回みえスタディ・チェック小5国語において、「きかい」の問題の正答率が大きく改善するなど、子どもたちの課題に対応したきめ細かな取組により基礎基本の定着が図られています。また、児童質問紙「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」について、全国に比べ約5ポイント上回っています。「子ども一人ひとりの学びに寄り添ったきめ細かな指導を進めてきたこと」によるものと考えています。

潮南中学校では、学習内容の理解と定着を図るため、校長のリーダーシップのもと、みえスタディ・チェックや学-Viva!!セットを計画的に活用した取組を全学年、全クラスで行っています。

取組 ① 全国学調、みえスタディ・チェック、学-Viva!!セットを全校体制で計画的に活用

(1) 全国学調、みえスタディ・チェックの再活用を年間計画に位置付ける

全国学調、第1回みえスタディ・チェックのつまずきの多かった問題について、自校採点后、授業で振り返るとともに、夏休みの補充学習、2学期（9月、10月後半）に全校体制で計画的に再活用を行っています。何度も繰り返すことにより、子どもたちの学習内容の理解と定着につなげています。

(2) 学-Viva!!セット活用期間を設定

学-Viva!!セットの発行月（6月、11月、2月）に合わせて、学-Viva!!セット活用期間を設けています。学-Viva!!セットを印刷して2・3年生全員に配付し、宿題等で取り組んでいます。

取組 ② 全校数学学習タイム（期間）の実施

(1) 全校数学学習タイムの実施

10月から毎週木曜日の朝の学習時間を数学学習タイムとし、全クラスが数学のプリント学習を実施しています。全国学調やみえスタディ・チェックで課題が見られた内容に関わる学-Viva!!セットや、県作成のワークシートを活用し取り組んでいます。

(2) 全校授業公開期間の設定

各学期に1回、2週間程度、教員がお互いの授業を参観する期間を設定しています。参観後、お互いにフィードバックを行い、授業の質の向上につなげています。

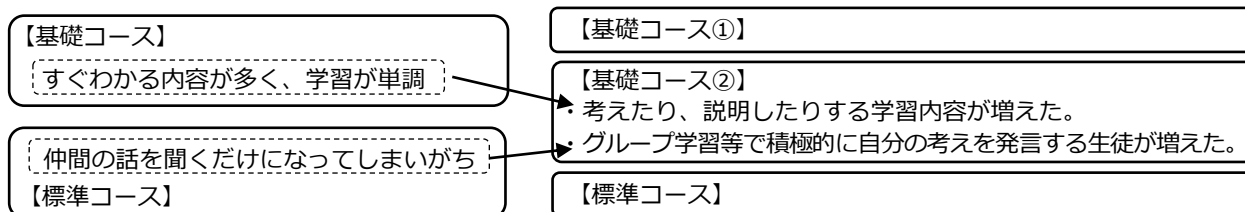
取組 ③ 子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導

(1) みえスタディ・チェックにおけるS-P表の活用

みえスタディ・チェックにおいて、学校独自でS-P表を作成し、個々の生徒のつまずきを分析し、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導につなげています。

(2) 子どもたち一人ひとりの状況に応じた習熟度別クラス編成

「わかる授業」確かな実践事業を活用し、全学年で数学の習熟度別指導を行っています。数学科の教員が、月1回教科会をもち、進度や授業方法の確認などを行っています。これまではA、B各クラスを2コースにして習熟度別指導を行っていましたが、S-P表の分析をもとに、1クラスを3コースにして習熟度別指導に取り組んだことにより、個々の生徒の状況に応じた授業が展開でき、生徒の意欲の向上や達成感につながっています。



取組 ④ 中学校区で取り組む

(1) S-P表の共有

第1学年のみえスタディ・チェックのS-P表を潮南中学校区の小学校と共有しました。小学校のときの子どもたちの学習状況を把握するとともに、授業実践の仕方、授業の様子などを聞きとりながら、中学校での学習をどのように進めていくか研修しました。

(2) 中学校区学力向上委員会

紀北町が各中学校区で行っている学力向上委員会を、潮南中学校区でも年3回行っています。第1回（6月）は、みえスタディ・チェックの結果の交流と中1の授業参観、第2回（9月）は、全国学調の結果の共有をしました。第3回（2月）は、割合の指導について、小中学校で一貫した指導ができるように、研修する予定です。

成果 「授業の内容がよくわかる」が大幅アップ!

全国学調の生徒質問紙の「数学の授業の内容はよく分かる」や、年2回行っている学校独自の生活アンケートの「コース別の授業について、数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して9割以上の生徒が肯定的な回答をしています。これからも、全校体制で学習内容の理解と定着につながる取組を進め、できなかったことができるようになることを目指していきます。

松阪市では、小学校と中学校が連携して学力の基盤づくりに取り組んでいます。中部中学校区では、15歳の時にどのような子どもに成長してほしいかゴールを共有し、共通した「家庭学習の手引き」、「学びの基本（学習の手引き）」、「教えるの基本（授業の手引き）」を作成しています。教師で共通理解を図り、子どもたちに指導しています。

取組 家庭学習を日常の授業と連動させる

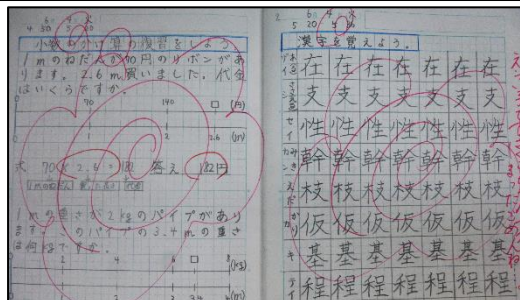
(1) 授業、家庭学習のやり方を全学年（中学校区）で統一する

学年が変わっても同じやり方で授業、家庭学習を行うことで、年度初めの基盤づくりをスムーズに行え、4月当初から子どもも教師も学習に集中することができます。

- ・家庭学習の一つとして自主学習に取り組んでいます。1～3年生は夏休みや土日に、4年生以上は毎日取り組みます。
- ・学年に合わせた「自主学習のやり方」を作成して取り組んでいます。

《自主学習のやり方・5年生》※一部抜粋

- ★日付、開始時刻、スタートからの通し番号を書く。
- ★自学メニューの中からやることを選ぶ。
- ★Aメニューの算数は、毎日必ず行う。
- ★空いているところがないように書く。
- ★めあてとふり返りを書く。
- ★フートは見開き2ページ以上。



Aメニュー（算数）

答え合わせとまちがい直しまでやって完成！

計算ドリル、教科書の問題を解く、教科書の「算数自習コーナー」の問題を解く、授業で一度間違えた問題をもう一度解く、テストのまちがい直し、算数の文章問題づくり など

Bメニュー（国語、社会、理科など）

- 授業で習ったこと、わからなかったところの復習
- 漢字練習、ミニ日記、おすすめの本紹介
新しく習った言葉や表現で文を作る
- 日本の山、川、湖、平野、盆地、などを調べる
新聞の記事を切り抜いて感想を書く
- 実験や観察でわかったことのまとめ
身近な生き物や植物・自然の様子を観察してまとめる など

- ・しっかり取り組めている子どものノートはコピーして学級で配り、書いた子どもが授業で学習内容を発表するなどして、全員で共有します。
- ・自主的に取り組みにくい子どもにはプリントを用意して貼らせるなど、すべての子どもが取り組めるよう支援します。

(2) 家庭学習で予習・復習できるよう、授業で取り上げる問題を工夫する

- ・授業で一度学習しただけでは定着が難しいため、家庭学習を工夫して繰り返し学習できるようにしています。

例えば… ①ある日の授業 ②その日の家庭学習 ③次の授業

①計算ドリル④に相当する学習内容 + 計算ドリル③

②計算ドリル④をやる・その日の学習内容の復習になる

計算ドリル⑤に相当する学習内容 + ③計算ドリル④

計算ドリル④の学習内容を3回できる！

- ・計算ドリルは、授業で学習した当日ではなく翌日以降の授業の中で取り上げて全員で学習します。そのことにより、自主学習②は①の復習になるだけでなく、次の授業の③に対する予習としても取り組むことができます。
- ・授業でわからなかったところは、一人で復習してもわからないままのことがあります。「わからない」が積み重ならないよう、翌日以降の授業でもう一度学習する機会を作っています。

(3) 家庭学習を授業者の振り返りに活用する

- ・Bメニューでは、授業でわからなかったところを振り返るように指導しています。そうすることによって、子ども自身がわかる・できるようになるだけでなく、子どもたちがどんなことにつまずいているのか教師が把握することができ、次の授業の指導に生かれます。

成果 子どもたちが、自信をもって授業に臨めるようになっていきます

予習をすることで、苦手な子どもも自信をもって授業に臨めるようになっていきます。また、繰り返し学習することで学習内容の定着が図られています。特に、算数の基礎的な知識・技能が定着し、全国学調の「知識」に関する問題のほとんどで正答率が全国を上回りました。

橋南中学校では、平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査を分析する中で、家庭学習の時間の短さが深刻な課題であること、子どもたちが社会に出たときに必要な基礎的な学力が重要であることから、平成 29 年度から「橋南スタディタイム」を設け、家庭学習の定着に取り組んでいます。

取組 子どもたちの意欲を喚起させる「橋南スタディタイム」

(1) 学校・家庭が連携して、子どもたちが学ぶ「しかけ」をつくっています

子どもたちが意欲的に家庭学習に取り組むことができるように、平成 29 年度から「橋南スタディタイム」(午後 9 時～10 時)を設けています。「橋南スタディタイム」の間は、テレビや携帯電話・スマートフォンの使用をやめて家庭学習に取り組む時間としています。

<子どもへの働きかけ>

① 「KYONAN Study Note」の作成

平成 30 年度に学校独自で「KYONAN Study Note」を作成し、家庭での自主学習に取り組めるようにしました。教員が丁寧にスタディノートを見てコメントを書いたり、声かけを行ったりすることで、子どもたちの達成感や自己肯定感を高め、さらなる学びへとつなげています。

② 「自主学習マニュアル」の活用

何をどのように勉強していいかわからない子どもたちのために、令和元年度には、「自主学習マニュアル」や自主学習マニュアル啓発用のクリアファイルを作成し、教科ごとの自主学習の取組のヒントを示しています。

<保護者への働きかけ>

入学説明会で保護者に家庭学習の大切さとともに、「橋南スタディタイム」について学校だより等の文書を使って周知を図っており、保護者の認知率は 96%となっています。また、「橋南スタディタイム」について、子どもへの声かけや励まし、テレビを消すなど、ノーマディアの環境づくりに向けて家庭の協力を促しています。

(2) 学校全体で家庭学習の充実に取り組んでいます

① 学校全体で「橋南スタディタイム」に取り組むために

第 1 回の職員会議で新しく異動してきた教職員に「橋南スタディタイム」について説明を行い、4 月から全ての教員が趣旨や取組内容等を共有して取り組めるようにしています。

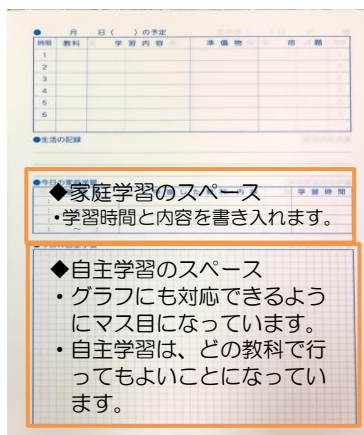
② 見通しを立てた家庭学習の促進

シラバスに家庭学習の内容を明記するとともに、宿題と関連付けたり、自主学習スペースに貼れる大きさのミニプリントを用意したりするなどして、子どもたちが自主的に家庭学習に取り組めるようにしています。

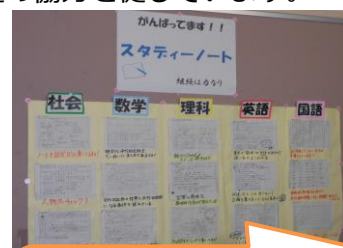
さらに、研修担当が中心となり、「橋南スタディタイム」の取組状況と定期テストとの関係等を分析しています。

(3) 小中連携による子どもたちの学力向上への取組

平成 29 年度から、橋南中学校区小中一貫教育推進協議会学力向上部会で、家庭学習の取組について交流を行い、各学校の取組を共有しています。このことをとおして、小学校から中学校への円滑な移行へとつなげています。



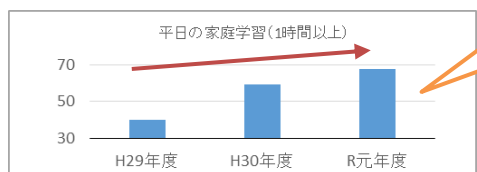
「KYONAN Study Note」



掲示スペースに教員のコメント付きでスタディノートを掲示することで、子どもたちの学習意欲の向上にもつながっています。

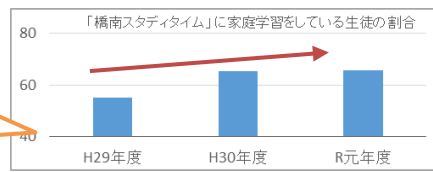
成果 計画的に家庭学習に取り組む生徒の割合が増加しています

子どもたちの「KYONAN Study Note」への愛着とともに、提出率も高くなってきています。また今年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査結果では、「家で自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回りました。「橋南スタディタイム」をとおして、子どもたちはどのように勉強すればよいか身に付いてきています。今後は、さらに主体的な学びにつながるように学校全体で取組を進めていきます。



平日の家庭学習(1時間以上)の割合が年々増加しています。

「橋南スタディタイム」を活用して家庭学習に取り組んでいる生徒が増えています。



本校では、基礎基本の学習内容の定着に課題があることから、朝の10分間を中心に補充的な学習に取り組む「スキルタイム」を実施しています。その取組等により一定の成果が見られたものの、全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、民間の学力検査などの分析から、「図形」「算数における記述式問題」に課題があることが分かってきました。

平成28年度から、4年生以上の算数で習熟度別少人数指導を取り入れ、子どもたちの習熟の状況に応じた指導について、研究を進めています。

取組① 習熟の違いに応じた「子どもが説明する方法」の工夫

習熟の違いに応じて「じっくりコース」(基礎)「てくてくコース」(標準)「どんどんコース」(発展)の3つのコースを設定しています。全コースで「説明する機会」を設け、どの子ども学習の中で書いたり話したりする活動を取り入れています。

(1) 習熟の違いに応じた「子どもが説明する方法」の工夫

単元の特性や習熟の違いに応じて、例えば「じっくりコース」では□に言葉を入れて説明する文章を作ったり、「てくてくコース」では算数用語をつなげて説明したり、「どんどんコース」では友だちの考えを説明したりするなど、子どもが説明する方法を工夫しています。

＜説明する方法の工夫(例)＞

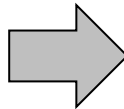
- ・ □に言葉を入れてまとめ、他の場合に当てはめて話す(書く)
- ・ 教科書の文章を使って、言葉をつなげて話す(書く)
- ・ 友だちの考えや説明の続きを話す(書く)

(2) 習熟の違いに応じたためあての提示

説明する力を高めるために、コース別に目指す姿を設定し、その姿を意識したためあてを提示しています。

＜コース別の目指す姿＞

- ・ じっくりコース(基礎)
「キーワードを使って短い文を書く」
- ・ てくてくコース(標準)
「友だちの考えを自分の言葉で書く」
- ・ どんどんコース(発展)
「ペアやグループで伝える」



＜コース別のためあての提示(例)＞

三角形をかく活動
じっくり「三角形のかき方を言葉にしよう」
てくてく「三角形のかき方を文で表そう」
どんどん「三角形のかき方を伝えよう」

(3) 「わかったつもり」から「わかった」へと理解を深めるペアやグループでの学習活動の工夫

各コースにおいて、ペアやグループでの学習活動を行っています。理解できた内容をペアの友だちに説明したり、グループの友だち同士が説明し合いながら文章にしたりして、理解した内容を確認なものにします。自分の考えが友だちにうまく伝わらないことから、学習内容が自分ではわかったつもりだったが、確実にわかっていなかったことに気付き、相手がわかるように説明することにより「わかったつもり」から「わかった」へと子どもたちの理解が深まっています。

取組② 考えを「図に表して」「大きく見せて」「動かして」説明する

問題を解く学習場面では、答えを求めるだけにとどまらず、「式や考えを説明する」ことを意識づけています。考えを図を使って説明できるように、4年生から数直線図を使って考えをかく指導しています。また、習熟の違いに応じてテープ図等も活用して指導しています。

図形の学習場面では、習熟の違いに応じて、書画カメラや画用紙を使って図形を実際に動かす・指し示めすなどを行わせながら説明させています。

説明する学習場面では、「〇〇さんの言いたいことは△△ってことだね」と聞いた内容を確認しながら、友だちの説明と自分のイメージをつなげながら聞くことを意識させています。

成果 全コースに説明する機会を取り入れることで、学習内容を整理して理解できた

上記のような取組を行う中で、自分の言葉で説明することを積み重ねることにより、子どもたちは最初うまく説明できず戸惑うことも多かったのが、少しずつ自分の言葉で表現しようとする態度が身に付いてきました。言葉だけで説明がうまくできないときは、図や絵、具体物などを使って相手にわかりやすく説明するようになってきています。

また「スキルタイム」において、学-Viva!!セットや本校独自のワークシート等を活用し、文章を書く力を育成する取組を進めてきたことも、自分の言葉で説明する力につながっています。

これまでの習熟の違いに応じた授業実践等を校内で共有し、指導の工夫に取り組んできたことが、成果として表れてきました。

亀山市では「亀山市学力向上推進計画」のもと、子ども一人ひとりの「確かな学力」の向上を目指した取組を進めています。全国学力・学習状況調査の結果から、長文で感想や説明文を書くことに課題が見られたため、「書く」活動を軸にして、課題の改善を図っています。

取組① 授業における「振り返る活動」の充実

(1) 全教科の授業で「振り返る活動」の時間を確保し、書く活動を充実する

全ての授業で、学習した内容を文章化して振り返ることで、学習内容の理解・定着を図るとともに、自分の学びの成果や変容を自覚し、自己肯定感を高めることができると考えています。

「振り返る活動」を充実するため、学校や子どもの状況に応じた方策や手立てを講じ、次のように段階的に取り組んでいます。

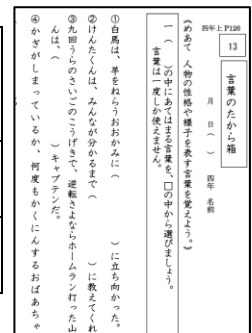
STEP1	授業の最後に、5分程度の「振り返る活動」の時間を確保する。
STEP2	5行以上の文章を書くことができるようにする。 <振り返りを書かせる際の留意事項> ・本時のめあてに対応させる。 ・「何を学んだか」、「学び方は分かったか」、「どのように考えが変わったか」について書かせる。 ・「次にどのようなことを学びたいか」について書かせ、家庭学習につなげる。
STEP3	子どもたちが書いた振り返りから、次のような姿が見られるようにする。 ・自分の考えや主張を、理由や根拠をもとに記述している。 ・自分の考えを整理したり、学習理解を深めたりしている。 ・自分の学びの成果を自覚し、自己肯定感を高めている。

取組② 国語科スキル学習の実施

(1) プリント教材を活用したスキル学習

・小学校第3学年、第4学年においては朝の短時間学習時に、亀山市教育委員会が作成した教科書の内容に応じた言語事項のプリントに取り組み、計画的に国語科スキルを身に付けることができるようにしています。また、三重県教育委員会作成の学-Viva!!セット(ワークシート)も併せて活用し、学校・子どもの状況に応じて、次の内容で取組を進めています。

STEP1	・ひらがな、かたかな、漢字 ・視写、聴写(集中力、筆圧・運筆、表記ルール、メモ力など) ・クロスワードパズル(語彙力)
STEP2	・国文法(主述関係、助詞、接続詞など) ・言語文化(ことわざ・熟語・故事成語など)
STEP3	・読解(活用問題を用いた文章の構造と内容の把握) ・文章構成(作文、ミニ論文など)



言語事項のプリント

(2) 学校図書館活用アドバイザーと連携したスキル学習

・学校図書館活用アドバイザー(司書免許を取得している退職教職員)が定期的に読書感想文の指導や新聞記事・コラムを活用した新聞作成の指導、百科事典を活用した調べ学習の指導を行い、読解力・情報収集力・構築力・表現力・思考力を高めることができるようにしています。

取組③ 定期的な教員アンケートによる取組の定着

「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組の進捗状況について、学期毎に市内小中学校の全ての教員にアンケートを行うことによって把握しています。このアンケートによって、教員一人ひとりの取組への意識が高まり、授業での「振り返る活動」が充実してきています。また、アンケート結果を校長会や研修担当者会でフィードバックすることによって、それぞれの学校が状況に応じた改善を進めることができるようにしています。

成果 小中学校でめあてと振り返りを基本とした学習スタイルが浸透しています。

「振り返る活動」の時間を確保することで、子どもが自分の考えや学んだことを文章にできるようになってきたことが教員アンケート結果の推移から明らかになっています。また、振り返りと正対しためあての提示がなされるようになり、小中学校でめあてと振り返りを基本とした学習スタイルが浸透してきました。

亀山市では市内全小学校での外国語活動(第3・4学年)及び外国語科(第5・6学年)先行実施をより充実したものにすることをねらいとし、1中学校、3小学校をモデル校に指定し、指導者の英語力と指導力向上のための研修会を通して英語指導法の研究・開発を行ってきました。

取組① モデル校を中心とした小中連携

小中学校の外国語教育の円滑な接続を目指し、各中学校の英語教育担当者が小学校での外国語活動や外国語科の取組を実際に見たり聞いたりする場を確保し、外国語活動や外国語科の内容に取り組んだ児童の中学校進学時を想定した中学校での指導方法について研究を行いました。

(1) CAN-DOリストを活用した系統的な外国語教育

- ・モデル校の英語教育担当者や英語科研究協力員の協力を得て、小中の接続を見通したCAN-DOリストを作成し、市内全小中学校に周知しました。
- ・小学校では指導内容の確認を行い、中学校では小学校での指導内容を踏まえた授業づくりにCAN-DOリストを役立てています。
- ・中学校の英語の授業でも、小学校の補助教材「We Can!」のChantsを使ったウォーミングアップなどを取り入れ、小学校での取組を踏まえた授業づくりを実施しています。

目標	場 所	場 景	備 考
① はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ② はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ③ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ④ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ⑤ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ⑥ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。	① はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ② はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ③ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ④ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ⑤ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ⑥ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。	① はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ② はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ③ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ④ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ⑤ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。 ⑥ はじめの挨拶は、日本語活動について、必要事項を確認することができる。	I English

(2) 小中学校間における参観、情報交換の場の確保

- ・モデル校間の外国語活動・外国語科における授業公開を市内全小中学校にも公開することにより、小学校の教員は中学校の教員の専門的な知識や技能を学び、中学校の教員は小学校の「聞く」「話す」を多く取り入れている授業展開の工夫について学んでいます。

取組② 小学校における外国語教材「We Can!」「Let's Try!」を活用した指導法の研究・開発

「Let's Try!」を活用した「聞く」「話す」を中心とした外国語活動における指導法及び、「We Can!」を活用した「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を扱った外国語科における指導法の研究・開発を行いました。

(1) 短時間学習の活用

- ・小学校第5学年、第6学年においては週に3回、朝の15分間を短時間学習とし、1単位分の外国語科の内容に取り組んでいます。活動は、導入・活動・振り返りの流れで実践しており、子どもたちにはその授業の流れが定着してきています。
- ・学習内容は、英単語の発音や意味をかるたやフラッシュカードを使ったゲームで学習したり、インタビューしたりするなど、「聞く」「話す」ことを中心にしています。

(2) ペアワーク、グループワークの活用

- ・HRT(学級担任)とALT(外国語指導助手)のデモンストレーションを見せた後、子どもたちが役割を分けて交流する活動を行っています。HRTとALTが役割を意識してデモンストレーションを見せることによって、子どもたちがどのようなやり取りをすればよいかを理解することができ、安心感のあるペアワーク、グループワークにつながります。

学年	使用教材	やり取り例
3年生	新3回 リアクティブカードを加え、2往復以上のやり取りをするようにする。	A/B Hello. A/Hello. A/B I'm ~. A/B Good bye. See you.
4年生	新4 U3 リアクティブカードを加え、2往復以上のやり取りをするようにする。	A/Do you like (Mondays)? B/Yes, I do. / No, I don't. I like (Mondays). How about you?
5年生	HF1 L2 相手の言った言葉を繰り返し、3往復以上のやり取りをするようにする。	A/How are you? B/I'm happy. A/How many apples? B/Ten (apples). A/That's right. B/How many balls? A/Ten balls.
6年生	HF2 L1 相手の言った言葉を繰り返し、理由を加えながら3往復以上のやり取りをするようにする。	A/When is your birthday? B/My birthday is March eighteenth. A/March eighteenth? B/That's right.

(3) Small Talk の活用

- ・HRTやALT、英語ボランティア(市教委が募集した英語の学習をサポートできる方)が話す既習内容の表現を使ったやり取りを聞き、それをもとに児童が話す活動につなげていきます。Small Talkの英文は短文ではなく、テーマに沿ったまとまった英文や会話で構成しています。Small Talkに習っていない単語が出てきたときは、聞きなれた言葉をつないで意味を推測させたり、話の前後から内容を考えさせたりする手立てを講じています。「その場」で質問したり答えたりする活動を授業の導入で行うことによって、中学校での「即興」で語ることにもつなげることができます。

成 果 小中連携による英語指導法の充実

各モデル校が、市教育委員会の指導・支援のもと、新学習指導要領を見据えた授業実践に取り組むことができました。また、亀山市内の小中学校での授業公開の回数が増えたことにより、モデル校以外の学校も指導の参考にすることができました。今後もCAN-DOリストに基づいた実践を進め、改良を加えながら、小中の連携を意識した外国語教育を進めていきます。